
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (2)」(令和2年度第3回研究会)

日時：令和3年3月6日(土曜日)午後6時00分より午後8時30分

場所：Zoom 会議システム

参加者：品川大輔, 阿部優子, 李勝勲, 梶茂樹, 安部麻矢, 若狭基道, 宮崎久美子, 古本真, 角谷征昭

18:00-18:30 品川大輔 (AA 研所員)「会議趣旨説明：バントゥ諸語声調のマイクロバリエーションのパラメター」

発表者の研究対象言語の1つである「ロンゴ語 (E623)」について、"Simplified questionnaire of microvariation of tone in Bantu (2021.01.13 ver.)"のパラメターごとに、どのような例を挙げたらよいか、具体例や音声データを提示した。また、本セッション中に、各パラメターの妥当性についての議論も行われた(添付 PPT 資料あり)。

18:30-20:00 参加者全員「バントゥ諸語声調マイクロバリエーションのパラメター：各研究言語ごとのパラメターの発表・議論」

参加者全員の研究言語について、スプレッドシートを共有しながらパラメターを集計し、Google map の分布を検証した。特に議論の対象となったのは、以下の2点である。

(1) パラメター4 (What is the tone bearing unit (TBU)?) について、TBU(Tone Bearing Unit)と TRU(Tone Realization Unit)との区別を、どのようにするか。

←実際の記述は、TRUであることを意識する。

(2) 研究対象言語がトーンを持たない場合、どのような記述が求められるのか。

←パラメター1に、prosody, intonation, prominence 等を詳細に記述する。

20:00-20:30 阿部優子 (AA 研共同研究員、蘭州大学)「会議総括：今後の予定、成果公開について」

- 成果物として、トーンのマイクロバリエーションのデータ集を出版する(オンラインか紙か?)
- データ集には、可能な限りで音声をつけてデジタルアーカイブの構築を目指す(2022年度 IRC プロジェクトとして申請する?)